

つくば市周辺の地域クラブおよびスポーツ施設の情報収集活動と公開に関する研究

藤井範久*・長谷川聖修*・武田 理**
宮崎加奈子***・高橋朋子***

1. はじめに

つくば市は、筑波大学体育系に対してスポーツ振興基本計画の作成を委託し、平成15年3月に基本計画案を完成させている。その中には、「つくば市のスポーツ振興の現状」「スポーツ振興のビジョン」「スポーツ振興の基本方策」「スポーツ振興の重点プロジェクト」などの項目が盛り込まれている。基本方策には、情報ネットワークの整備として、(1) e-health (イーヘルス) システムの整備、(2) e-sports (イースポーツ) システムの整備、(3) e-club (イークラブ) システムの整備、などがあげられている。しかし、現在のつくば市教育委員会スポーツ振興課 (<http://cms.city.tsukuba.ibaraki.jp/310800/>)、つくば市体育協会 (<http://www.tsukubashitaikyoo.jp/>) のWEBサイトで公開されている情報は、十分であるとは言い難い。このような現状では、スポーツ振興基本計画を実現するのは困難であると思われる。

幅広いスポーツを紹介するWEBサイトは、大手企業やメディアが中心となって開設されているが、地域に特化したスポーツ情報WEBサイトはわずかしかない。地域に特化した情報を提供するWEBサイトとしては、横浜市体育協会が管理・運営している「ハマスポどっとコム」(<http://www.hamaspo.com/>) や新潟県が管理・運営している「新潟県スポーツ情報」(<http://www.pref.niigata.jp/soumu/kenminsport/>) などが現時点での代表例であろう。このようなWEBサイトでは、地域に特化する、言い換えると地元密着型の情報を提供できるというメリットもある。たとえば、(1) 「身近」などのキーワードを用いて、できるだけ手軽に楽しめる情報を提供できる、(2) 地域のスポー

ツクラブ・団体や施設を紹介できる、(3) 地域特有のスポーツや試合、イベント、健康法などを紹介できる、などが考えられる。

現在行政や企業が「メタボリックシンドローム」をキーワードとして、フィットネスクラブや栄養指導教室などの様々なサービスや事業を行っている。また2006年11月時点でつくば市体育協会に登録している地域クラブは486にのぼり、登録していない地域クラブや団体も多数あると考えられる。しかし、様々なサービス・事業・活動があり、また多くの地域クラブがあるために、個々のニーズ(目的やレベルなど)に適したサービスや地域クラブを選択するための手段や情報源が少ないのが現状である。本来、つくば市スポーツ振興基本計画を実行に移して推進していくことが、栄養指導教室などのサービスや地域クラブを選択するための手段や情報源を増やすことにつながるはずであった。しかし現状は、上述したようにWEBサイトで公開されている情報は、十分であるとは言い難い。

そこで本研究では、つくば市周辺のスポーツ施設および地域クラブの情報を収集・公開するWEBサイト「つくばスポーツナビ」(<http://www.tsukuba-sports.com/>) を開設し、継続的にWEBサイトを運用していくための課題について検討した。

2. WEBサイト「つくばスポーツナビ」の構築

WEBサイト「つくばスポーツナビ」を構築、運営するために基本情報は、つくば市周辺のスポーツ施設および地域クラブの情報である。

スポーツ施設に関する情報については、つくば市体育協会を通じて市内の体育施設(公園を含む)

* 筑波大学体育科学系

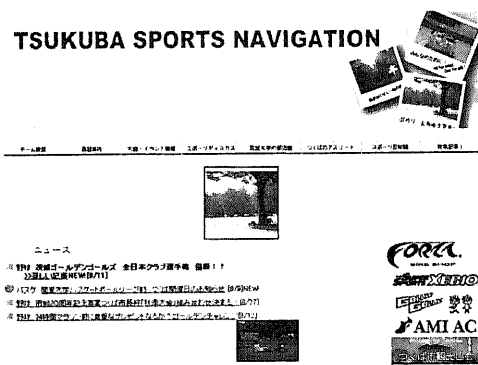
** LEXS (レクス)

*** 筑波大学体育研究科

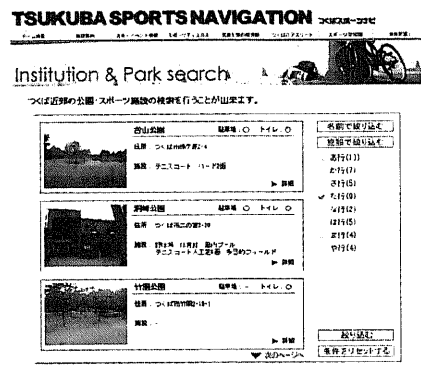
42箇所の基本情報を入手した。具体的には、付帯する施設の種類(野球場、テニスコート、プール、体育館など)、駐車場、使用料などの情報を得た。さらに現地調査も行い、WEB サイト公開用に写真撮影を行った。また洞峰公園のように複数の施設をもつところもあり、WEB での公開の際には、「グラウンド」「テニスコート」などの施設をキーワードとして検索する機能も付加した(図1参照)。なお上述のスポーツ振興課の WEB サイトにも体育施設の情報が掲載されているが、検索機能はなく、利用したい施設を一つずつクリックしなければならないものである。

地域クラブの情報についても、つくば市体育協会を通して情報を入手した。つくば市体育協会には19 種目の専門部と9 種目の少年団が組織され、

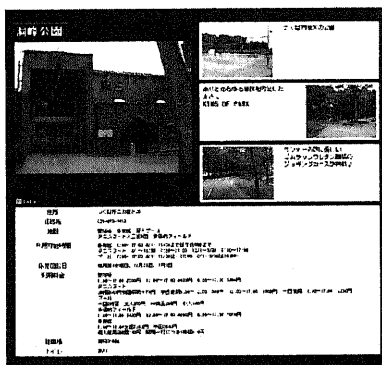
約500の地域クラブや団体が登録されている。これらの地域クラブや団体に対して、つくば市体育協会経由で団体代表者の連絡先、メンバー構成などの情報提供を依頼する手紙を送付した。基本情報についてはつくば市体育協会が把握しているが、近年の個人情報保護の観点から、「つくばスポーツナビ」に掲載することを希望した地域クラブや団体のみをWEB サイトに掲載した(現時点では、地域クラブや団体の代表者がネットワーク経由で情報を入力・修正することができるようにし、つくば市体育協会に登録していない地域クラブや団体についても WEB サイトに情報を掲載できるようにしている)。なお登録されている地域クラブの一つに「茨城ゴールデンゴールズ」いわゆる「欽ちゃん球団」も含まれており、別途取材を行い、



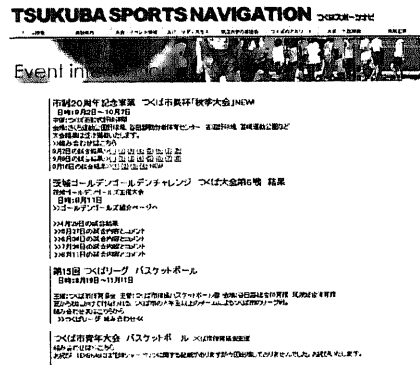
(a) トップページ



(b) 施設検索ページ 名前または施設で絞り込みが可能



(c) 施設検索結果表示ページ



(d) 大会、イベント情報紹介ページ

図1 「つくばスポーツナビ」

特集記事として WEB サイトで紹介している。

また、つくば市体育協会専門部には WEB サイトを独自で管理・運営しているところもあるが、掲載されている情報は少ない。また「つくば市長杯」「連盟杯」などのリーグ戦、トーナメント戦の試合結果に関しても、個々の地域クラブの WEB サイトに、そのクラブが参加する（した）試合の予定や結果が掲載されることはあっても、リーグ戦、トーナメント戦全体の情報が掲載されている WEB サイトは極めて少ない。そこで、つくば市体育協会専門部の部会長に対して、つくば市体育協会経由で試合予定および試合結果の情報提供を依頼した。その結果、現時点では、バスケットボール部会と野球部会から情報提供を受けている。

「つくばスポーツナビ」では、上述の基本的な情報に加えて、「スポーツディスカス」「アスリート紹介」「筑波大学の部活動」「スポーツ豆知識」などの独自で取材した情報をコンテンツとし、現時点での WEB サイトを構築した。図 1 に WEB サイト「つくばスポーツナビ」のトップページ、施設検索ページなどを示しているが、本稿執筆時点でも WEB サイトの更新・改良を継続的に行っている。

3. WEB サイト「つくばスポーツナビ」へのアクセス状況

図 2 は、WEB サイトへのアクセスを解析するソフトウェア (Urchin) を用いてサイト開設 (2007 年 2 月) 以降の月間アクセス数をグラフ化したものである。11 月初旬に集計した結果であるため 11 月のアクセス数が少ないが、着実にアクセス数が増加していることが分かる。

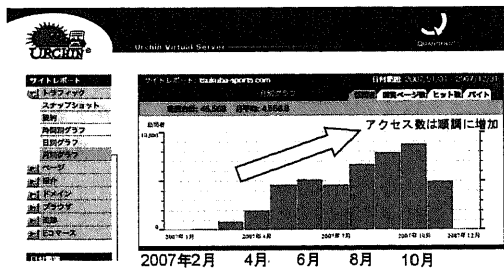


図 2 月間アクセス数の変化 (2007 年 11 月初旬のデータ)

図 3 は、ある週のアクセス状況を示したものであるが、月曜日にアクセス数が増えていることが分かる。月曜日にアクセス数が増える傾向は他の週でもみられ、土曜日や日曜日に行われた試合結果をチェックするために WEB サイトアクセスしているものと考えられる。

図 4 は、国内の主要検索サイトであるヤフー (<http://www.yahoo.co.jp/>) とグーグル (<http://www.google.co.jp/>) から「つくば」と「スポーツ」をキーワードとしてサイト検索を行った結果である。アフリエイト系 (有償広告) のサイトを除くと、ヤフー、グーグルともに「つくばスポーツナビ」が上位に表示されており、本研究で開設した WEB サイトが十分に認識されていると評価できる。また、つくば市体育協会やつくば市スポーツ振興課の WEB サイトより上位にランクされており、つくば市のスポーツ振興にける努力の低さを伺い知ることができる。

4. 今後の課題

4.1 データベース化

今回構築した WEB サイト「つくばスポーツナビ」では、試合予定や試合結果などは電子メールやファックスで送られてきたものを編集して、WEB サイトに掲載している。上述したように、月曜日に WEB サイトへのアクセス数が増えることから、試合結果についてはできる限り早く WEB サイトに掲載することが求められる。そこで、サーバー内にデータベースを構築し、試合終了直後に携帯電話などからデータベースにデータを送ることで自動的に WEB サイトに反映される仕組みを構築すべきであろう。

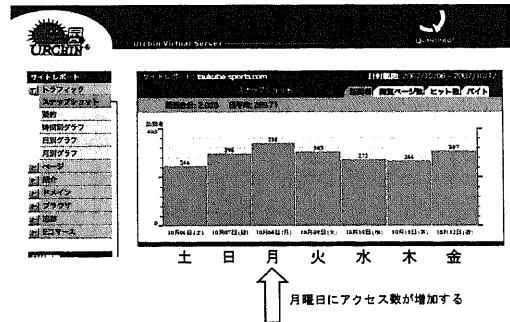
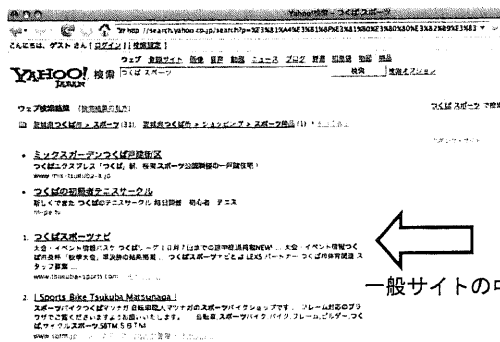
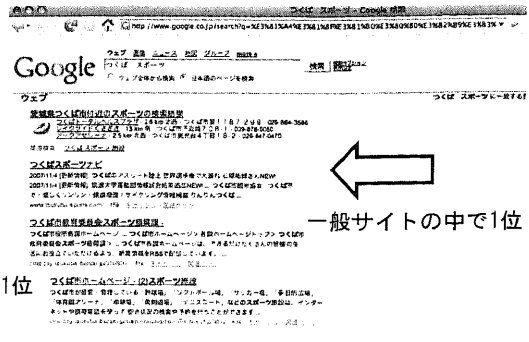


図 3 アクセス数の変化 (土曜～金曜)



(a) ヤフーによる検索結果



(b) グーグルによる検索結果

図4 主要検索サイトによる検索結果 「つくば」 & 「スポーツ」で検索した結果

4.2 携帯電話（モバイル端末）からのアクセスへの対応

現在のWEBサイト「つくばスポーツナビ」は、パソコンからアクセス・閲覧されることを念頭において全体設計を行っている。そして、近年の携帯電話（モバイル端末）からのアクセス（i-modeやEZwebなど）には不親切なのである。上述してきたように、試合結果をすぐ知りたいという要求に対応するためには、携帯電話からのアクセスに対応する必要がある。

4.3 管理・運営母体

WEBサイト「つくばスポーツナビ」は、つくば市のスポーツ振興基本計画で謳われている「e-sports（イースポーツ）システム」を補完するために開設したと考えてよかろう。したがって、本来「つくばスポーツナビ」はつくば市が主体となって管理・運用されるべきであると考えている。しかし、土浦市スポーツ振興課と意見交換した際に「行政では定期的な異動があり、WEBサイトの管理・運営する技術を持った職員が担当になるとは限らないため、積極的にWEBサイトを開設できない」との意見を頂いた。また、行政が管理・運営するWEBサイトでは、特定の企業の宣伝になるような情報を掲載することを避けるため、基本的な情報の羅列に終わる危険性がある。

現時点では、体育研究科修了者がLEXS（レクス）という任意団体を立ち上げ、WEBサイト「つくばスポーツナビ」を管理・運営している。このままLEXSが管理・運営を続ける、つくば市に管理・運営を委ねる、またはWEBサイトを閉鎖するかについては、さらなる議論が必要であろう。

4.4 セキュリティ管理

WEBサイト「つくばスポーツナビ」には、地域クラブのURLやメールアドレスが掲載されている。すなわち、サーバーに個人情報が集積されている。サーバーのセキュリティ管理については細心の注意が必要であるが、ネットワークのセキュリティの専門家は筑波大学体育系には在籍していない。今後本格的にWEBサイトを管理・運営していくのであれば、上述の運営母体とともにセキュリティ管理に関する議論を進めていく必要がある。

5. おわりに

つくば市スポーツ振興基本計画を作成した筑波大学体育系は、計画を作成するだけでなく、その計画を推進するための活動も積極的に行うべきであろう。本研究が、つくば市内のスポーツに関する情報を有機的に結びつけ、つくば市におけるスポーツの活性化に貢献するきっかけになればと期待する。

なお、得られた各種情報はWEBページに掲載するだけでなく、フリーペーパー「LEXStyle」（<http://www.tsukuba-sports.com/>からサンプルを入手可能）を創刊し、ネットワーク環境を持たない人々へも提供した。WEBサイトの更新とは違い、編集、印刷、配布などの負担が増えるが、おおむね好評である。

謝辞 本研究を実施するにあたり、つくば市スポーツ振興課、つくば市体育協会、土浦市スポーツ振興課、有限会社SIONをはじめとする多くの行政、企業から協力をいただいた。ここに記して感謝いたします。